

風水害

気象庁の注意報・警報

大雨や強風などにより災害が起こるおそれのあるときは「注意報」、重大な災害が起こるおそれのあるときは「警報」、重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは「特別警報」が発表されます。

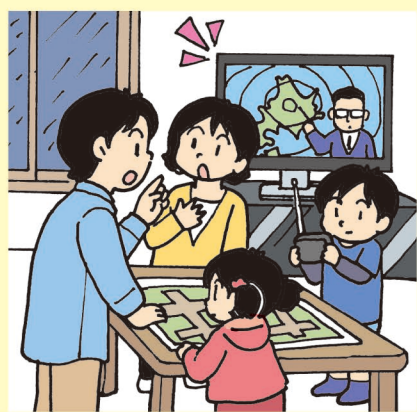
The Meteorological Agency issues an "advisory" when there is risk of a disaster due to a heavy rain or strong wind, "warning" when there is risk of a serious disaster and "special warning" when there is extremely high risk of a serious disaster.



注意報 警戒レベル2 Advisory (Alert level 2)

最新情報に注意し、災害に備えて早めに準備しましょう。

Pay attention to latest information and make early preparations against a disaster.



警報 警戒レベル3 Warning (Alert level 3)

町が発表する避難情報に注意し、必要に応じ速やかに避難しましょう。

Pay attention to evacuation information announced by the town office and evacuate immediately when necessary.



特別警報 警戒レベル4 Special warning (Alert level 4)

避難情報に従い直ちに避難! 外出が危険なときは、家の中でも安全な場所へ!

Evacuate immediately according to evacuation information! If it is dangerous to go out, go to the safest place in your house!



風水害の危険度

雨による危険度のチェックポイント

やや強い雨 (1時間に10~20mmの雨) 地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。	強い雨 (1時間に20~30mmの雨) 土砂降りの雨、傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小河川では、はんらんやがけ崩れの心配もあります。	激しい雨 (1時間に30~50mmの雨) バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要です。道路規制も行われます。	非常に激しい雨 (1時間に50~80mmの雨) 雨が滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなります。マンホールから水が噴出することもあり、土石流などが発生しやすくなり、警戒が必要です。	猛烈な雨 (1時間に80mm以上の雨) 息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。
--	--	---	---	---

風による危険度のチェックポイント

やや強い風 平均風速(10~15m/s) 風に向かって歩きにくくなり、取付けの不完全な看板やタタミが飛び始めます。	強い風 平均風速(15~20m/s) 風に向かって歩きにくくなり、転倒する人が出たりビニールハウスが壊れはじめたりします。	非常に激しい風 平均風速(20~25m/s) しっかりと体勢を確保しないと転倒します。金属製のシャッターが破損したり、風で飛ばされたもので窓ガラスが割れたりします。	猛烈な風 平均風速(30m/s以上) 立っていられなくなり、屋外での行動は危険です。ブロック塀が壊れたり、取付けの不完全な屋外外装材がはがれ飛び始めます。樹木が根こそぎ倒れ始め、屋根が飛ばされたり、木造家屋が全壊したりします。
--	--	---	--

洪水についての基礎知識

外水はらん

 1 大雨や雪解けによって、川の水量が増え、水かさ上がり始めます。	 2 堤防いっぱいまで水が増えると、土でできた堤防に圧力がかかり始めます。
 3 水圧に堤防が耐えられなくなると、一部が崩れ始めます。	 4 堤防の崩れた場所を通過して勢いよく水が流れ出し、家に襲いかかります。

内水はらん

 1 街などに降った雨は、側溝・雨水管を通過して川に排水されます。	 2 大雨が降ると、川の水位が上がり、排水されずにあふれてしまいます。
--------------------------------------	--

風水害時の心得

ひざ上まで水があると歩行困難 水流が弱くても冠水している道路を通るのは危険です。歩ける水の深さは50cm程度が限界でひざ上まであれば歩行困難です。 	子どもはロープでつなぐ もしものことを考えて、子どもと大人の体をロープでつないでおきましょう。 	足元の溝などに注意 氾濫した水は濁っているため地面が見えません。長い棒を杖代わりにして確認しながら、できるだけ道路の真ん中を歩きましょう。
子どもや高齢者の安全を確保 小さな子どもや足の不自由なお年寄りは背負って、安全に避難しましょう。 	川や水路に近づかない 川や水路、冠水している場所のそばは避けて避難しましょう。あらかじめ決めておいたよく知っている避難経路を通りましょう。 	がけなど危険な場所を避ける がけのそばを避け、垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。